



板橋区景観賞
受賞

齋藤商店と志村一里塚

「緑と建物が一体となった中山道のランドマーク」

齋藤商店は、原木商として明治22年（1889）に当地で創業。建物は、昭和8年の中山道（現国道17号線）拡張工事にもなって新築されたもの。

原木商を営む店舗と住居が一体となっており、入母屋造の平屋に2階を乗せた構成を持つ建物であり、外観は、2階の窓の手摺に寺社の高欄（こうらん）風の反りを持たせ、外壁には真壁漆喰（しんかべしつくい）塗りを施すなどの特徴があり、郊外の独立住宅の趣（おもむき）を呈（てい）する和風建築物で近接する志村一里塚と一体化した町のランドマークとしても親しまれている。

外壁、屋根、窓ガラスには国産の趣のある材料を使用しており、歴史的な景観要素である志村一里塚と調和し、良好な景観を形成しており、歴史的景観資源として継続的に良好な景観の形成に寄与している。

当時の景観を良好な状態で保全しており、道を通る人や車両にこの場所の歴史的意味を明快に伝えている。